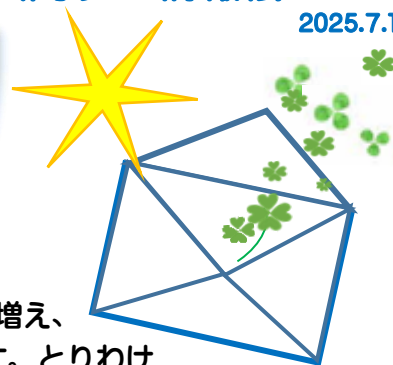


だれもがキラリ



ポストコロナの日本で、ある統計ではDV相談件数は1.5倍に増え、孤立や孤独を含めた心の健康問題と女性の貧困は非常に深刻です。とりわけ若年女性への影響は計り知れません。

これから先の日本を共に生きていく上で、なぜこのような状況になってしまったのか、また今後どうしていけばよいのかを考えるきっかけになればと思い情報紙のテーマとしました。たくさんの市民の方の目にとまりますように。

女の子を守りたい！

今、日本の女の子たちに起こっていること

少し前に話題になったトー横キッズという言葉聞いたことはあるでしょうか。いじめや虐待によって居場所を持たず、生き辛さを抱える10代を中心とした若者が全国から新宿の東宝ビル周辺に集まり、彼らの事をそのように呼ぶようになりました。今夜の寝床を求めて売春に及び少女たちやいわゆるパパ活と呼ばれる援助交際。SNSを起因としたものが多くあり、近年小学生被害児童が増えています。

居場所がない子どもたち

- ・家庭内に事情があり家にいたくない
- ・学校でいじめにあい家庭にも学校にも居場所がない
- ・“親”格差（経済的事情・親“ガチャ”問題）
- ・ヤングケアラー



機能不全の家庭で育った子は心の発達も不全になりやすい

自己肯定感を持ってない

親との関係が不全だった場合や元々生まれ育った家庭がない場合など。度重なる挫折や諦めがある。

人と適切な距離を取るのが難しい

さまざまな理由から愛着障害（幼少期に心の安全基地を形成できなかった子に現れる）を抱える子が多く、その特徴は用心深くて他者をなかなか信用しない抑制タイプ、または対人距離が近すぎるタイプもある。知らない大人にも警戒せずに近づいたり、過剰になれなれしく言葉をかけたりついていったりする。

家庭内で居場所が持てない子が自分の居場所を求めたとき・・・

同じような若者が集っている夜の繁華街へと向かうことがあります。昔より向かいやすくなっているでしょう。現代では、いつ、どこで、どのようにといった情報は、スマホひとつで簡単に手に入り、同じ悩みを持つ人ともSNSでつながりやすいといえます。

18才に満たない女の子が家出をしたとき

行き場所がない

- ・家を借りられない
- ・トー横、グリ下のような居場所のない若年者達が集う場所へ※
- ・ネットカフェなど利用する事も

働けない

- ・働けたとしても非常に低賃金

違法で稼ぐように

- ・仲間からの入れ知恵
- ・悲しいことに売春はいまだ若い女性が金を稼ぐ手段として最も手取り早い方法
- ・自ら SNS にて“援助者”を探す・援助交際

悪い大人の存在

- ・少女だと知っていながらの買春
- ・割の良い働き口として違法な職業への斡旋
ホストクラブなどとグルになっている事も

※グリ下とは大阪・道頓堀のグリコ看板の下。若者達のうち7割は地方から集うという。

このような場所を楽しそうなところだと思っている若者も多い。



〇〇依存からの借金

アルコール依存や薬物依存、恋愛依存やホスト依存も。

性感染症

近年、梅毒が急増しています。決して過去の病気ではありません。

犯罪被害

普段から夜の繁華街に出入りをしている子の場合はその被害が軽視されがち。

妊娠・妊娠不安

仮に妊娠して、出産する・中絶するどちらを選んだとしても過酷

*OD や自傷行為

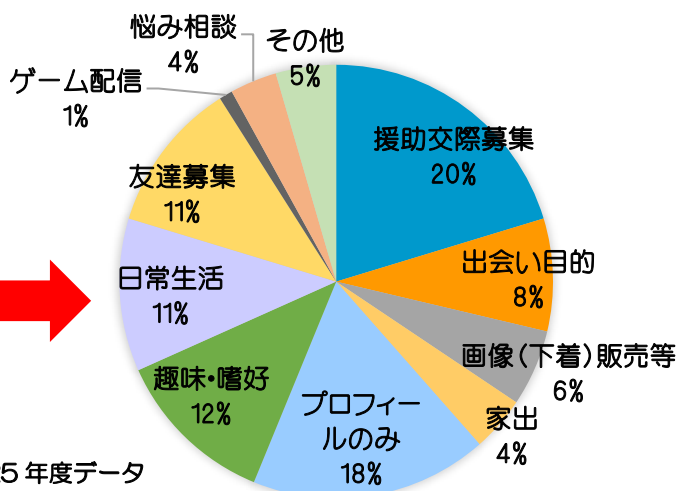
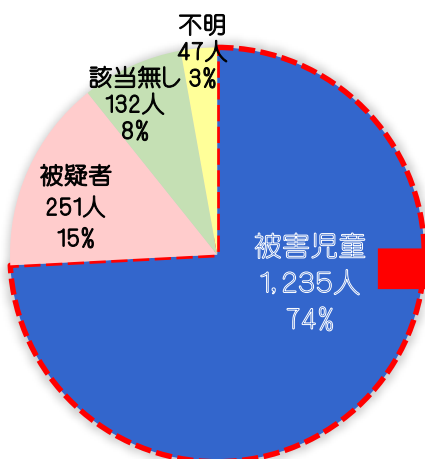
辛い現実を一瞬でも忘れるために一般医薬品を乱用。購入に制限がなく見た目にも分からない。

※OD とはオーバードーズ。一般医薬品乱用のこと。

SNS がきっかけの事犯が多数

被害児童(1,235人)の投稿内容の内訳

最初に投稿した人



※警察庁 R5 年度データ

彼らに何が必要か考える

・叱ってくれる大人の存在

家族からの無関心から、叱られた経験のない子もいる。悪いことは悪いことであると叱られる経験も必要。鞆の中にたばこをしのばせていたところ、それをとがめられてはじめて気にかけてもらえたと感じる子もいる。



・食事支援

子ども食堂や炊き出しへの支援。



・物質的な支援

生活必需品の支援。特に女性の場合、生理用品が必須になってくる。若年女性の中にはなけなしの金で化粧品を買い、生理用品に回す金はなく、トイレットペーパーで代用したり、交換する回数を減らしたりする「生理の貧困」問題が存在する。化粧品は顔だから目立つため、そちらが優先になると言う。

・安心して過ごせる居場所

絶対的な安心・安全であるはずの家庭に居場所がない子が多く、ただ「居る」だけの場所が必要である。



・地域や自治会での見守りや連携強化

無関心になるのではなく、地域全体の問題である事を自覚し、情報を共有し、対処に努める。



・関係機関の連携と、彼女らと直接接触ができる方法の構築

警察、児童相談所、行政が一体となって、そのままでは聞く耳を持たれないので、彼女らと話の出来る人員を確保する。



・彼女らを利用する大人の取り締まり強化

彼女らを追い込むのはいわゆる「悪い大人」の存在が大きい。これまでの取組に加えて、監視する体制が必要なのではないか。

・しっかりと話を聞いてくれる人

皮肉にも繁華街の「悪い大人」は彼女らの話をとてもよく聞いてくれるという。政治家にも彼女らの話を真剣に聞く人がいてくれたら希望が持てるのでは。



支援団体紹介

特定非営利活動法人 レスキュー・ハブ（東京都渋谷区）

アウトリーチ活動として都内繁華街（主として新宿区歌舞伎町エリア）使い捨てカイロやポケットティッシュ、クレンジングシートなどに相談カードを張り付けて配布。つながった女性への直接的支援、立ち寄り場所事業、シェルター事業を運営。

特定非営利活動法人 BOND プロジェクト（東京都渋谷区）

生きづらさを抱える若い女性のための女性による支援を提供し、青少年の健全育成を図ることに寄与する目的としている。例えば、(1)ドメスティックバイオレンスにより帰る場所の無い、または自宅が精神的な拠り所となれない青少年の保護を行い、(2)社会・家族・友人等に関する人間関係の不信感に対するメンタルケアやカウンセリングを実施し、(3)問題を抱えた青少年が、就業・生きがいの獲得・社会参画できる機会を提供する。

特定非営利活動法人 こどもセンター んっく（大阪市北区西天満）

虐待等により、安心して帰れる家がない子どもたちのための緊急避難場所を運営する NPO。虐待、貧困、非行などの理由で、家に居場所をなくし、心も身体も傷つき、生きづらさを抱えた子どもたちが、安心して心と身体を休めたり、自立に向けた準備をすることのできる生活の場の提供。

特定非営利活動法人 子どもシェルターモモ（岡山県内）

今すぐ助けてほしい！という子どものための緊急避難場所の提供、女子のシェルター「シェルターモモ」を運営。また、おおむね15歳から20歳までの子どものための自立を支援することを目的とした居場所の提供として、現在、自立援助ホーム「学南ホーム」、自立援助ホーム「あてんぼ」を運営しています。さらに自立に向けて送り出した子どもががつまづいても再チャレンジしていけるよう継続的にサポートを行うため、アフターケア事業所「en（えん）」を開設。

本来であれば家庭の中で親に守られ、学業や部活動、友人との交友に勤しむ青春の時代を、辛い思いをしながら、それを誰にも言えずに抱えている子どもたちがいます。

彼らが今後の人生について悲観的にならず、希望を持って明日を迎えられるよう、まずは取り巻く現実について私たち大人が無関心にならず知ることからだと思います。また、地域の中でこのような子を見つけた場合、自分に何が出来るかを考えられる人でありたいですね。



玉野市では、DV や性暴力などをはじめとする女性特有の悩みについて相談を受け付けています。相談は無料です。秘密は厳守します。

玉野市男女共同参画相談支援センター

なやむな

玉野市奥玉1-18-5(すこやかセンター内)

Tel: 0863-33-7867

相談時間 8:30 ~ 16:00 (土日・祝日・年末年始 12/29~1/3 を除く)